（第２号様式）

神奈川県教育委員会教育長　殿

令和５年５月１日

県立大和西高等学校長

令和５年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標（令和2年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価（　月　日実施）	総合評価（　月　日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①グローバル人材としての資質の涵養 ②持続可能な教育課程の編成と実践 ③次世代の学校教育を視野に入れた不断の授業改善	①世界への関心を深め、多様な存在について相互理解を深めようとする姿勢を培う。 ②バランスの取れた教育課程の実施に向け、魅力ある取組を行う。 ③よりよい授業の実践のための創意工夫を継続する。	①ICT の活用など、世界の人々と交流する方法を模索し、相互理解を深める。 ②話し合い活動を効果的に取り入れる授業実践や海外修学旅行などの行事、国内外の姉妹校との交流や留学生受入などの取組を行う。 ③教科の枠を超えた研究授業を実践し、授業改善のための研究協議を行う。	①グローバル教育アンケートで「国際的な理解が深まった」と答える生徒が 80％を超えたか。 ②話し合い活動を取り入れる授業実践や行事、国内外の姉妹校との交流や留学生受入などの取組を効果的に実践できたか。 ③研究授業、研究協議を実践し、その成果を共有することができたか。					
2	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	①生徒が集中して授業に取り組むことができる学習環境の整備と学習習慣の確立 ②部活動や特別活動を通した協調性及び人間性の向上	①生徒が安心して授業に集中できるよう教育相談体制の充実を図りつつ、きめ細かな生徒支援を行う。 ②部活動や特別活動における人格形成の重要性を共有し、生徒の主体的な活動を支援する体制を持続する。	①ケース会議や教育相談コーディネーター、スクールカウンセラー、ＳＳＷを効果的に活用し教育相談体制の充実を図る。 ②今年度、様々な制約のある中で、部活動や特別活動の実施について、生徒と共に考える場を設けるなど、精神の成長を促す工夫を継続する。	①生徒による授業評価のアンケートで「集中して授業に取り組んだ」と回答する生徒の割合が増加したか。 ②部活動の加入率が増加したか。 ②部活動の定着率が 80％を超えたか。					
3	進路指導・支援	①自立した社会人となるための資質の育成 ②社会の趨勢を捉えた適切な進路指導と進路希望の実現	①高大接続改革について情報を整理し、効果的な進路指導につなげるとともに、主体的な進路実現に向けた取組を継続する。 ②学習活動コンソーシアムや	①外部との連携を深める。生徒のニーズにこたえられるキャリアプログラムについて効果的な方法を工夫する。 ②ガイダンスや説明会、講習や補習の充実を図る。生徒の学習や進路について	①国公立や難関私立大学（早慶上理、G-MARCH）などの大学へ進学する生徒が増加したか。 ②将来の職業を見通して、進路（学校）選択をする生徒が増加した					

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（　月　日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（　月　日実施）	成果と課題	改善方策等
			多様な体験活動等の取組により、主体的な進路選択のための支援を行う。	の悩みの相談を受け易くし、支援する体制をつくる。	か。					
4	地域等との協働	①地域等との連携事業を通した共感能力や協調性の育成、及び社会の形成者としての自覚と奉仕の精神の涵養 ②地域と連動した防災体制の確立	①実施可能な地域連携の形態を工夫する。 ②地域防災の観点から、地域における学校の役割を整理し、生徒の成長に資する活動について工夫する。	①地域の行事交流だけでなく、地域の学校等との交流を推進し、情報共有や相互理解を深める。 ②地域の防災訓練や近隣と連携した防災体制について、学校の役割を整理し、生徒の成長に資する活動について可能な範囲ですすめる。	①ポストコロナを視野に、コロナ前の取組を参考に、地域との継続的な関係を維持し、進展させることができたか。 ②地域防災について、学校の役割を整理し、生徒の成長に資する活動について可能な範囲ですすめることができたか。					
5	学校管理 学校運営	①適切な業務分担と進捗管理 ②学校の課題に対する意識の共有と協働体制の構築	①教職員の働き方改革を踏まえ、効率的で質の高い教育の展開に向け教職員組織の活性化を図る。 ②事故防止等の学校の課題に対する意識を職員全体で共有することができる、風通しの良い職場の雰囲気を醸成する。	①グループ業務分担の見直しや勤務状況の把握を行い、適切な業務配分を行う。併せて、話しやすく相談しやすい職場の雰囲気を醸成する。 ②各グループリーダやサブリーダが、主体的に互いに相談しながら、年間計画に則った適切な業務の進捗管理を行う。	①職員のストレスチェック診断で、高ストレスを抱える職員の割合が10％未満であるか。 ②時間外勤務や休日勤務を行う職員の割合が減少したか。また、職員の勤務時間の実態に、著しい偏りがないか。					